

いじまで 進んだ 最新治療

従来、虫歯などの治療がかぶせ物をする場合、保険診療では「銀歯(金属)」しか選択肢がなかった。それが近年、「CAD/CAM冠(きやどきやむかかん)」という「白い歯のかぶせ物」が一部の歯で保険適用になり、昨年にはさらに適用範囲が拡大され、一番奥(前から7番目)の4本の歯を除く、他の歯はすべて保険適用になった。

銀歯を使わないメリットは、口を開けたときの見た目が良くなるだけではない。幸町歯科口腔



外科医院(埼玉県志木市)の宮本日出院長「顔写真」が説明する。

「歯科用金属に対してアレルギーのある人の割合は30〜40%です。特に20%の割合が規定されているパラジウムは、アレルギー起因物質として欧米など先進国では使用しない方針にシフトしています。このように歯科治療のメタルフリー化は、金属アレルギー対策でもあるのです」
「CAD」とは、コンピュー

ターを用いて設計を行うこと。「CAM」とは、CADで作られたデータを実物の製品にすること。つまり、CAD/CAM冠とは、3Dシステムを使って白い複合樹脂(硬いプラスチック

ク)から作られた「冠(歯の全部をかぶせる技工物)」というわけだ。

まず歯型を取り、石膏を流して歯型模型を作るところまでは銀歯と同じ。それ以降の作業を



CAD/CAM冠(上)と、それを作る装置



白いかぶせ物「CAD/CAM冠」

コンピューター上で行う。3Dカメラで歯型模型のデータを読み込ませ、冠を設計。装置を使って材料の四角いブロックを削っていく、冠の形に完成させるのもコンピューター制御により行われる。

ただし、CAD/CAM冠の最大の弱点は、銀歯やセラミック(自由診療の歯)よりも材質の強度が劣るところだ。

「治療対象の条件には『大きな力がかかり過ぎない』『かみ合わせが安定している』などがありますが、実際(統計)には約10%に脱離・破折などが起こります。それはCAD/CAM冠の材質は、水(唾液)に長く浸かっていると、強度がもろくなる性質があるからです。特に、力が最もかかる大白歯(前

から6番目の奥歯)では、壊れる可能性が一番高くなります」

また、冠をかぶせる場合、土台となる元の歯を削る必要がある。CAD/CAM冠では材質の厚みを厚くして、強度を上げる対策が取られるが、その厚さは銀歯の倍以上が必要。女性など歯が小さかったり、薄かったりすると、材質の厚みを確保するだけ歯が削れないので適応が難しいことがあるという。

「保険治療では、冠の保証期間は2年です。しかし、CAD/CAM冠は予後が不安定で、再治療が必要になる可能性を考え生涯治療費に換算すると、必ずしも安価とはいえません。治療する歯の場所や状態で、どんな治療法が最良なのか、歯科医師によく相談するのがいいでしょう」

CAD/CAM冠にかかる自己負担金は、銀歯に比べて1000円以上高額になるという。

銀歯を使わない歯科の保険治療

(新井貴)